

党神奈川県議団

スマホで津波の危険回避へ

東京・大田区の東京工科大で

「避難ナビシステム」を視察

公明党神奈川県議団(鈴木秀志団長)はこ
のほど、東京都大田区
にある東京工科大学浦
田キャンパスを訪れ、



板宮助教(右から5人目)と共にキャンパス
内で避難ナビの運用を試みる党神奈川県議団

津波などに対して避難
の安全性を高める「津
波等避難ナビシステム
『デジタル皆助ナビ』」
について関係者と意見

を交わした。
「デジタル皆助ナビ」
は、津波などの災害発
生時にスマートフォン
(多機能携帯電話)ス

マホ)に安全な逃げ道
を表示し、避難場所ま
で誘導するシステム。
同大学デザイン学部の
板宮朋基助教と衛星画
像解析などを行う株式
会社アイエスエム(板
宮憲一代表取締役)が
共同で開発した。

気象庁が巨大地震に
伴う津波警報を発令す
ると、これをスマホが
感知して警告音などで
ナビ使用者に津波の発
生を知らせる。全地球
測位システム(GPS)
で現在位置を把握し、
津波の予測到達時間を
表示。建物の倒壊や液

状況など危険性が高い
地点を避け、状況に応
じて最適な避難ルート
提示する。

間違えて危険な方向
に進みそうになった場
合は、「この先危険ノ」
などの文字情報と警告
音や振動で注意を喚
起。また、通信網が途
絶えて利用できない状
況でも、事前に取り込
まれたデータを基に自
律的に作動できる仕組
みにする計画だ。

今年9月には、南海
トラフ巨大地震で最大
34センチの津波が予測され
る高知県黒潮町で実証

実験を実施。板宮助教
は「今後、さらに黒潮
町で実証実験を重ね、
地域に応じて最適な避
難ルートを提案し、来
年3月の実用化をめざ
したい」と述べた。

この後、屋外で避難
ナビを作動させたスマ
ホを手にして、実際に
運用を試みた鈴木団長
らは「一日も早い実用
化とともに、首都直下
地震など津波以外の災
害時における対応にも
役立つシステムとして
幅広く応用され、普及
することを望みたい」
と語っていた。



スマートフォン上で
作動する避難ナビ